



友人の皆さん、

教皇フランシスコが呼びかけ開催されている「希望の聖年」は、後を継いだレオ十四世によって、数週間後、幕を閉じます。私にとって、この数か月、ローマにいて、世界中からの多くの巡礼者が集い、聖年のさまざまな典礼の祝いに参加することを通して神の恵みを最大限に受けとめるのを目にするのは恵みでした。キリスト者は神の民であり、私たちは自らのために希望をもつとともに、より良い世界を希望します。私たちはあきらめません、私たちの希望は、復活されたイエスに根ざしているからです。

イエス・キリストに信仰と希望を置き、世界中のサレジオ会員は、他の文化、宗教の人々と協力しながら、より良い未来を目指して働きます。希望をもたらす、差し出すために、垣根は要りません。皆さんの支えと温かい心に助けられ、サレジオ会員と、共に働く信徒・協働者が、より良い世界を目指して働き続けることができるよう、お祈りください。

希望の聖年は幕を閉じます。しかし、より明るい未来を目指し、神の民の間に愛、平和、調和をもたらすために、私たちはキリストに希望を置き続けます。

● 東アジア・オセアニア地域顧問
ウィル・マッシューズ神父, SDB

福音宣教の情熱に満ちた150年!

この10月、宣教の月に、教皇レオは教会のために祈るよう私たちを招いています。教会がシノドス的な生き方を取り入れ、耳を傾け、対話し、「共に担う使命のために」共に識別を行うものとなるようにと。それを行うのに、サレジオ会第一回宣教派遣150周年以上に良い機会はないでしょう。

今日、当時と同じように、主とドン・ボスコは私たちを招き続けています：「すべてを後にしなさい。出発の時が来た！」私たちが、「はい」と応えるのを、ほかの国々、文化、人々に福音の喜びをもたらすために自分の安全地帯を後にするのを、恐れませんか。一人ひとり皆が宣教師だということは、確かです。でも、「故国を出て ad externos」、「すべての民に」神の国を告げ知らせるため出向いて行く宣教師も必要です。その宣教師たちのおかげで、今日、サレジオのカリスマは137か国に広がっています。

宣教師として出かけて行くということは、多様性を愛し、その土地の伝統を大切にし、福音を謙遜に種蒔き、聖霊がすでにそれぞれの民族のうちに蒔かれたものによって自らも豊かにされる、そのように生きようになることです。福音宣教は、出会いのすばらしさを教えてくれます、そして真に福音的なまなざしをもって多様な文化の内に価値を見だし、共に生きることを実現させるよう促します。

この宣教の月、10月に、呼びかけに応える開かれた心を新たにしましょう。キリスト者の勇気ある希望のあかしを世界は待っています！

そしてあなたは？ 諸国の民の間で希望の福音宣教師となるため、出かけて行く用意はありますか？「われに魂を与え、他のものは取り去りたまえ！」

● 宣教顧問 ホルヘ＝マリオ・グリサフツリ神父, SDB



メキシコに派遣された最初のサレジオ会宣教師たち 1892年



日本に派遣された最初のサレジオ会宣教師たち 1926年

振り返りと 分かち合いのために

- 「諸国の民の間の希望の福音宣教師」が差し出せる最高の貢献は何だと思えますか？
- 今日の宣教師にとって、異なる文化を前にしたときの最大の限界や挑戦は何だと思えますか？

中東の宣教師： 皆を一つにするものを求めて

ジェルマン、あなたは、いくつかの国から成る中東管区に派遣された若い宣教師の一人です。文化や言語、宗教や伝統の多様性をどのように捉えていますか？

私が驚いたのは、中東にさまざまな典礼があることでした。カルデア、コプト、シリア、アルメニア、メルキト派、マロン派、ラテンなどの典礼です。私はラテン典礼のカトリックの人たちとだけいることに慣れていますが、ここに来たとき、ラテン典礼に所属していないほかの典礼の人たちも、私たちの修道院での活動に参加していることに気づきました。その経験から学んだのは、いちばん大事なのはキリスト者だということで、どの典礼に所属しているかではない、ということです。その土地の言葉ができることは、宣教の大きな助けになります。私が自分たちの言葉を話せるとわかると、若者たちは私を助けてくれて、もっと心を開いてくれます。言葉を学ぶことは、若者と共にいるために、彼らの世界の一員になるために必要です。

あなたの管区では、どの共同体もとても国際的ですね。そのことをどう思いますか？

私たちは異なる国の出身ですが、神は使命と会憲を通して、共に暮らし困難を乗り越えるよう、私たちを一致させてくださいます。それでも、共同体の中で協調して暮らすには、謙遜と理解が必要です。会員同士の分かち合いは、お互いを知り理解するための鍵の一つです。それがなければ、共同体生活の質は大きく損なわれるかもしれません。

イスラム教徒の若者やキリスト者の若者と一緒に活動するのはどのような経験ですか？ 何か違いはありますか？

一見、イスラム教徒のために私たちが働くのは奇妙に見えるかもしれませんが、私たちはイスラム教徒のためのユース・クラブをアレキサンドリアとレバノンで開設しています。また、カイロとアレキサンドリアの私たちの学校で、若いイスラム教徒が学んでいます。私にとっては、その人の宗教よりもその人自身が大切です。ですから皆、平等で、どの若者とも同じように接しています。しかし、相手の気持ちを害することがないように、言葉には気をつけなければなりません。私たちの共同体では、キリスト者と同じように、若いイスラム教徒も、ここでの生活・活動によく従っています。

文化や宗教は多様ですが、皆と良い関係を築くために、私たちを一致させるものを見いだすよういつも努めています。

ジェルマン・マエヴァトキー、
SDB



私はマダガスカル人で、中東の宣教師です。1年間の実地課程をマダガスカルで行った後、イタリア語を学ぶため、イタリアへ行きました。それから、1年間の宣教体験のため、管区からアレppo (シリア) に送られました。カイロで2年間、アラビア古典学を修め、今はトリノのクロチェッタで神学を学んでいます。



フ オ ー ラ ム 世界の宗教 (2020-2025)

1. キリスト教：世界人口の28.8% (約26億人) - 内 カトリック50%、プロテスタント37%、正教12%、ほか1%
2. イスラム教：世界人口の25.6% (約20億人の信徒)
3. ヒンズー教：世界人口の14.9% (約12億人)
4. 仏教：世界人口の7% (約5億人の信徒)

約14億人 (世界人口のうち) が宗教に所属しておらず、キリスト教、イスラム教に次いで最も大きなグループである。

出典：世界の宗教 統計と予測：1800-2025

10月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

感謝 > 多様な伝統

サレジオ会の意向

私たちは宣教事業において、さまざまな文化や宗教と出会います。その多様性からくる豊かさを感謝します。

教皇レオの祈りの意向 > さまざまな宗教的伝統間の協力



国際的な
サレジオ会共同体の
メンバー